1. 調査の目的

本アンケートは鹿児島県勤労者共済会会員へ共済会の活動をもっと知って頂くことと、地域社会や働く人たちのお役にたてる情報を得ることを目的に実施したものである。

また、現在、学生の2人にひとりが奨学金を利用している中で、その返済について「返したくても返せない」若者が増大している。さらに本人を含め、保証人の自己破産者も増加傾向にある。

このような中で、鹿児島県勤労者共済会会員の方が、今や社会問題となっている奨学金の事を知っているのかなどを目的として実施した。

2. 調査時期

2017年3月～2017年4月末

3. 調査の内容

Ⅰ. 基本項目（あなたご自身のことについて）

Ⅱ. 生活、教育費の負担や奨学金について

Ⅲ. 共済会が紹介する金融機関（労働金庫について）

4. 調査の方法

アンケートは、鹿児島県勤労者共済会(以下共済会)と九州労働金庫鹿児島県本部との議論に基づいて共済会が作成した。なお方法は、自記式調査によるものである。

5. 調査の配布・回答

対象者は鹿児島県勤労者共済会会員で、九州労働金庫の鹿児島県内13店舗の各支店で現在に至るまで融資制度を利用しており、加入申込書に加入年月の記載があり、20歳以上60歳未満の会員の方を対象とした結果、最終対象者は3,191件となった。回答数は487件（3月末）、その内鹿児島県勤労者共済会および労金に対するご意見・ご希望は71件であった。【回答率；15.8％（3月末現在）】

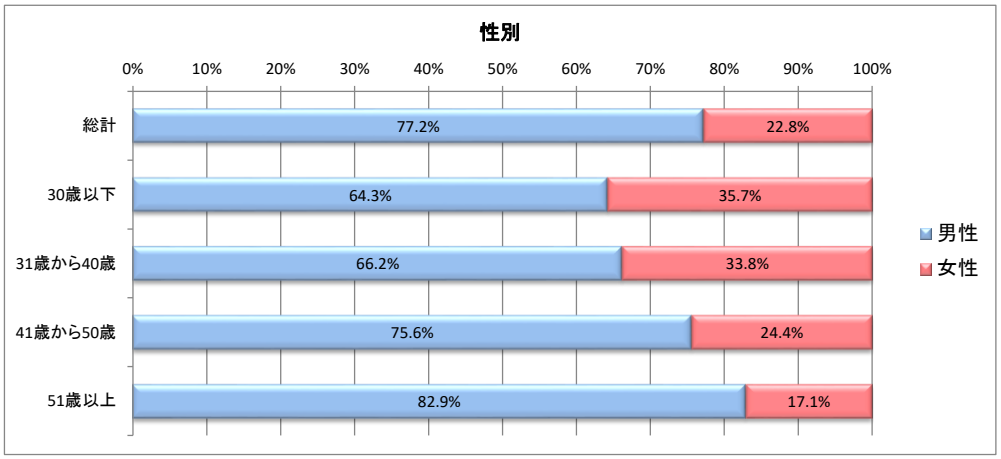
分析上の留意点

比率は、すべて少数点以下第2位を四捨五入し少数第1位で表示する。

【第1章　調査対象者のプロフィール】
Ⅰ．基本項目（回答者ご自身について）

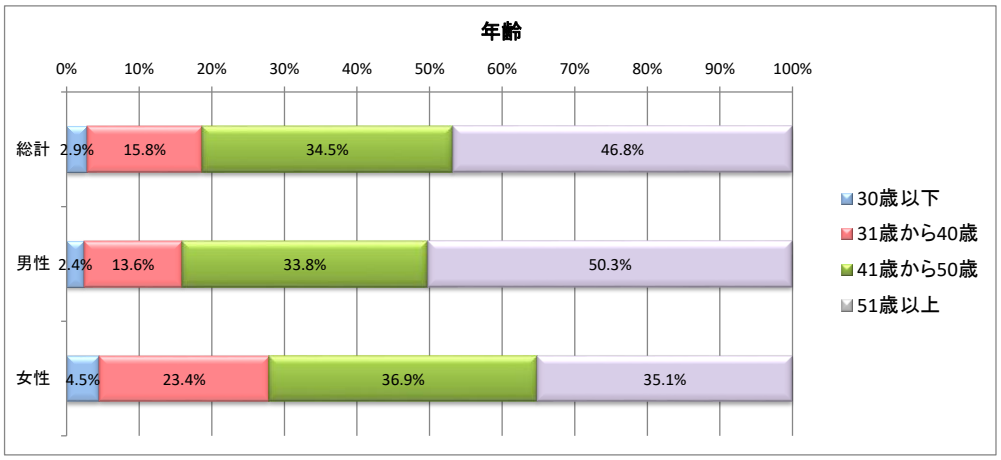
（1）性別

アンケートの集計結果による男女比は、男性が77.4%、女性が22.6%である。若い世代になればなるほど女性の比率が大きく、30歳以下の女性が占める比率が最も高い。



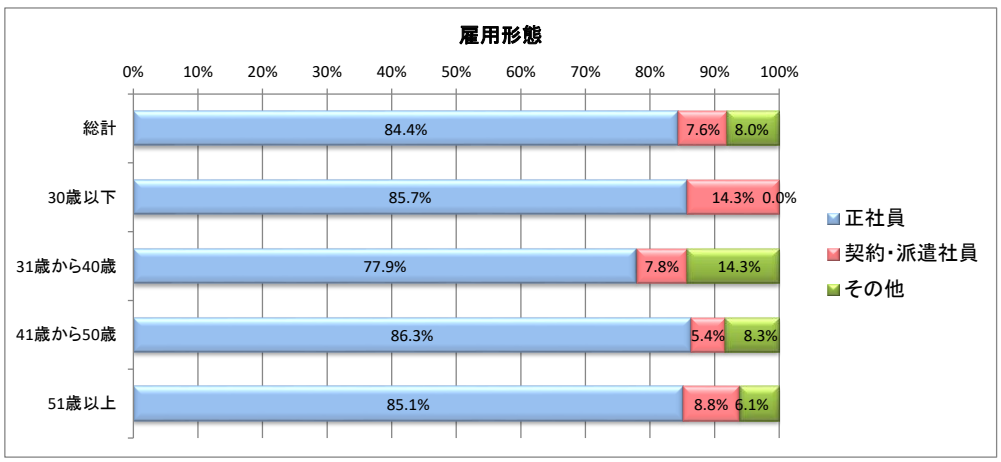
（2）年齢

年齢構成については、51歳以上が46.9%で最も多く、次いで41歳から50歳までが34.6%、31歳から40歳までが15.6%となっており、30歳以下については、2.9%と最も低くなっている。尚、平均年齢は47.6歳となっている。（中位数値）



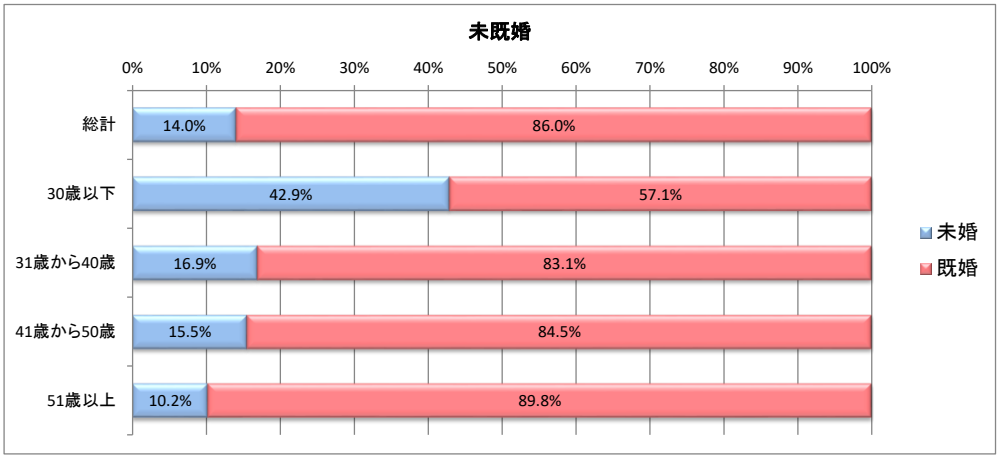
（3）雇用形態

雇用形態は「正社員」が84.4%と多数を占め、「契約・派遣社員」（7.6%）と「その他」（8.0%）を合わせた〈非正規労働者〉が15.6%である。



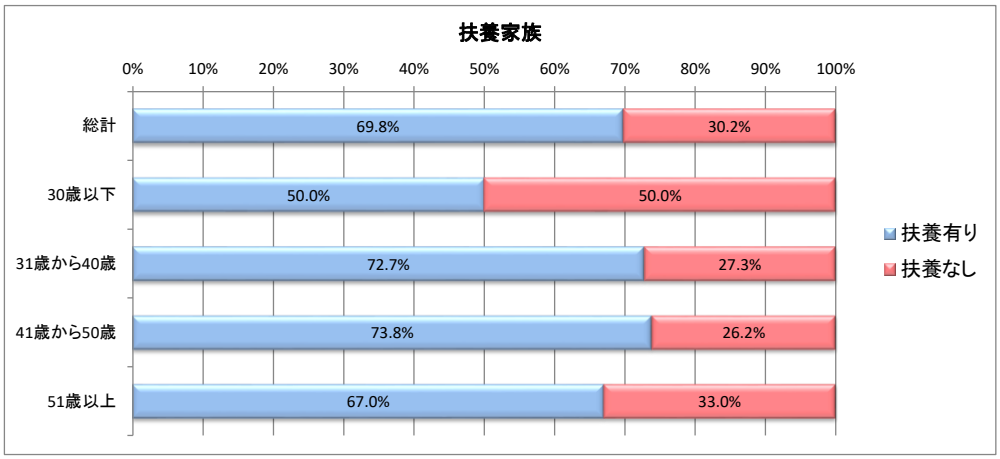
（4）未既婚

既婚者が全体の86.0％を占めており、未婚者は14.0％である。



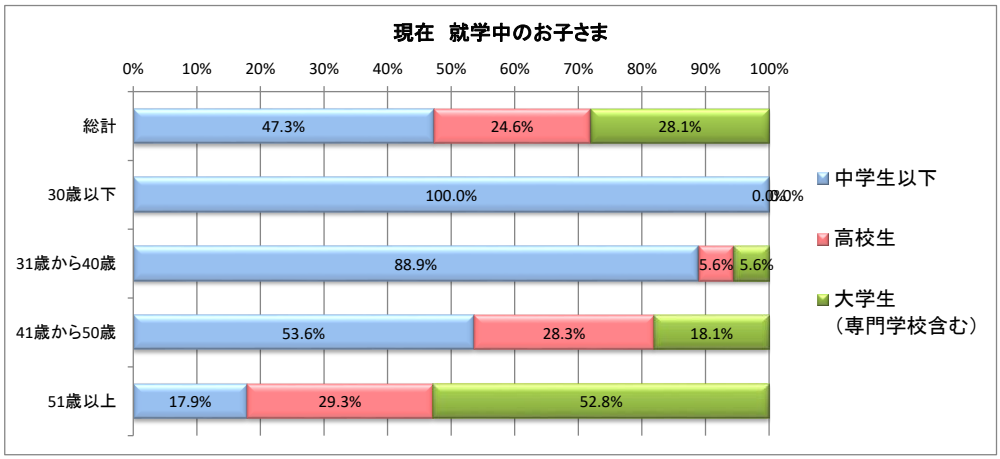
（5）扶養家族

扶養家族のいる家庭は69.7％であり、扶養家族のいる家庭全体の52.9％を31～50歳が占めている。



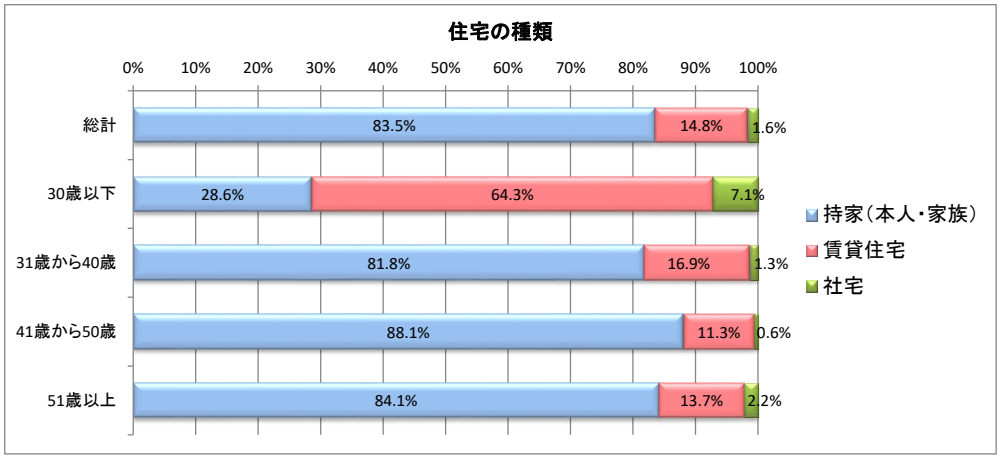
（6）現在 就学中のお子さま

就学中の子どものいる家庭は、中学生以下の子どもがいる家庭が47.1％であり、次いで大学生（専門学校含む） が28.2％となっている。就学生が複数いる家庭もあり、今後教育資金の需要が高まると想定される。



（7）住宅の種類

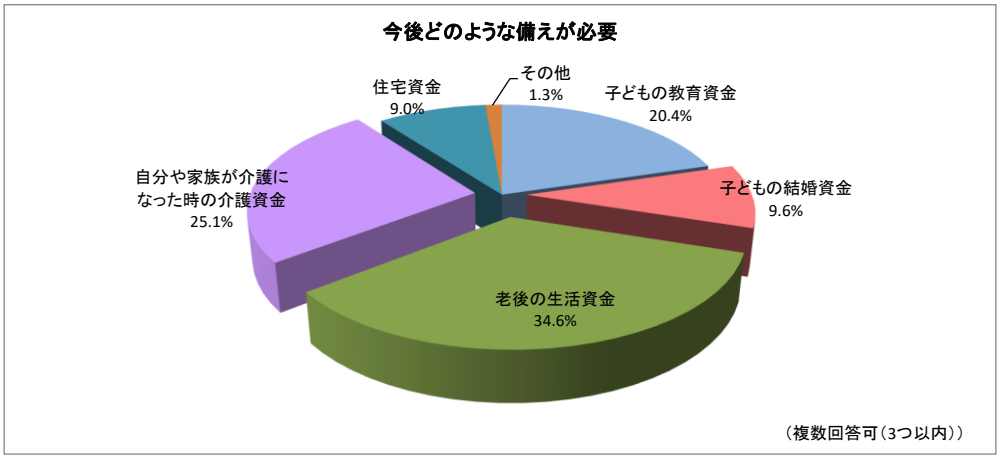
住宅の種類は83.5%が持家（本人・家族）である。

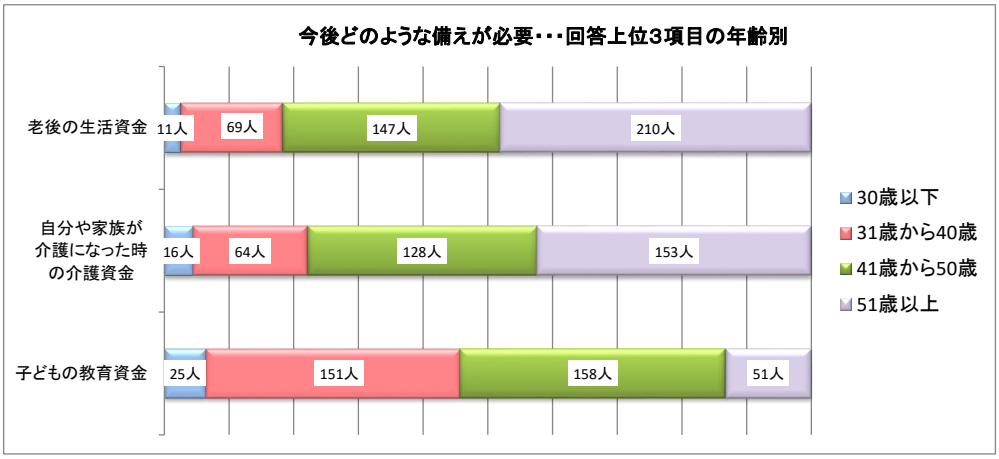


【第2章　経済的負担および老後の備えについて】
Ⅱ．生活、教育費の負担や奨学金について

（1）あなた自身やあなたの世帯で、今後どのような備えが必要だと思いますか。

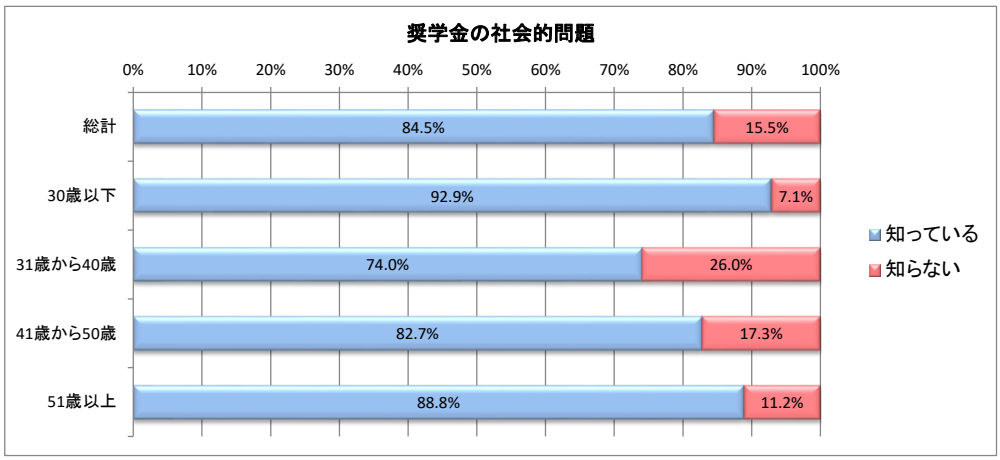
今後の生活の中で必要と考えられる備えについては、「老後の生活資金」が34.6%、次いで「介護資金」が25.2%、「子どもの教育資金」が20.3%と続いた。中高年層(51歳以上)では“老後生活や介護”、若年層(31～40歳)では“子どもへの備え”を重視する傾向にある。





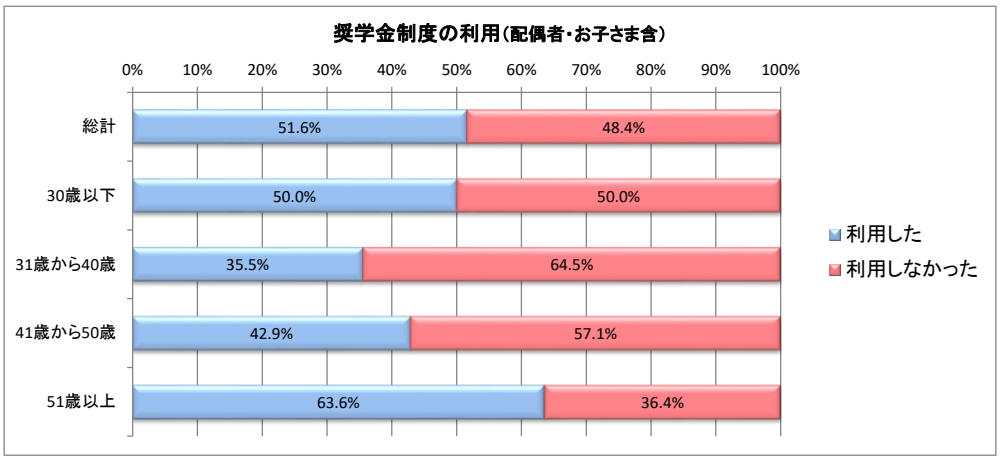
（2）現在、学生の2人に1人が奨学金を利用している中で、その返還を「返したくても返せない」若者が増大しています。
この事が社会的にも大きな問題になっていますが、ご存知ですか。

奨学金の社会問題については、問題を認識する割合が84.6%を占めており、関心の高さがうかがえる。



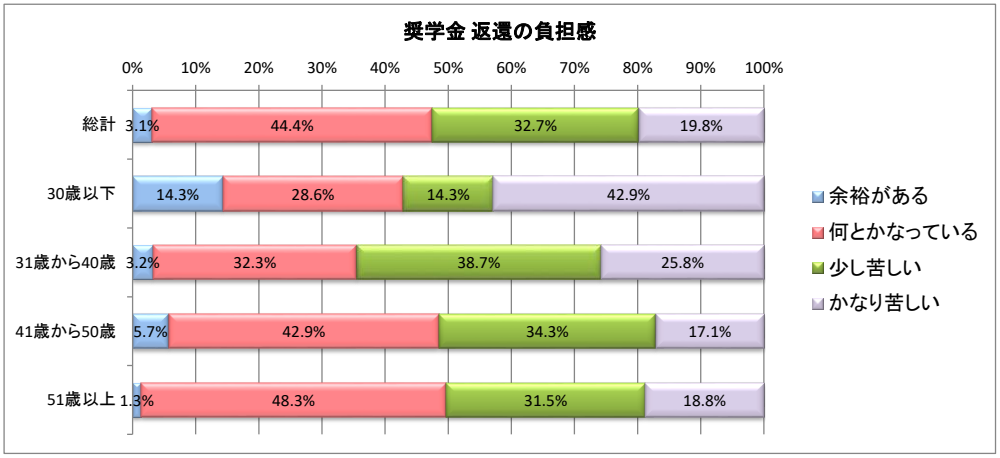
（3）ご自身や配偶者、お子さまが、学生時代に奨学金制度を利用していますか（いましたか）。

奨学金制度の利用については、「利用した（している）」方は51.7%であり、特に51歳以上の方が最も多く（63.6%）利用していた。



（4）返還の負担感はどの程度ありますか（ありましたか）。

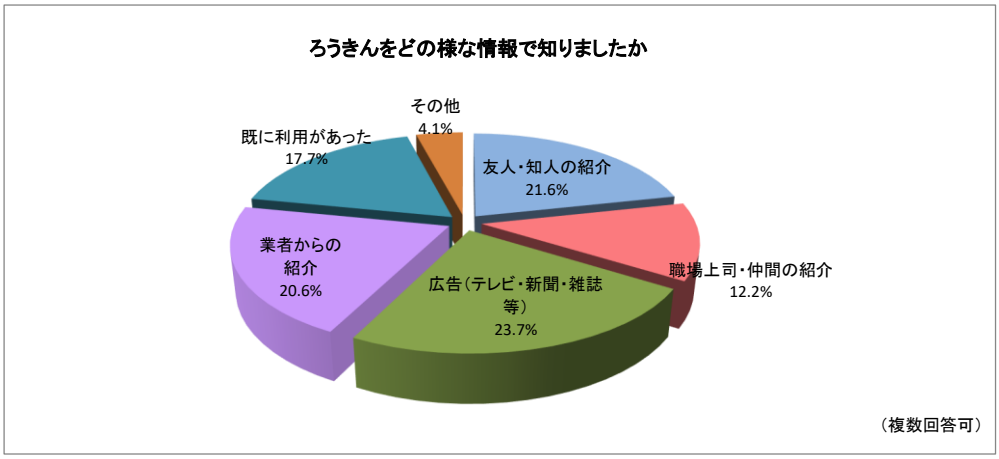
返還の負担感については、「少し苦しい」が32.7%、「かなり苦しい」が19.8%、合わせて52.5%の方が苦しいと感じており、やはり大きな負担となっている。



【第3章　共済会が紹介する金融機関について】
Ⅲ．共済会が紹介する金融機関（労働金庫について）

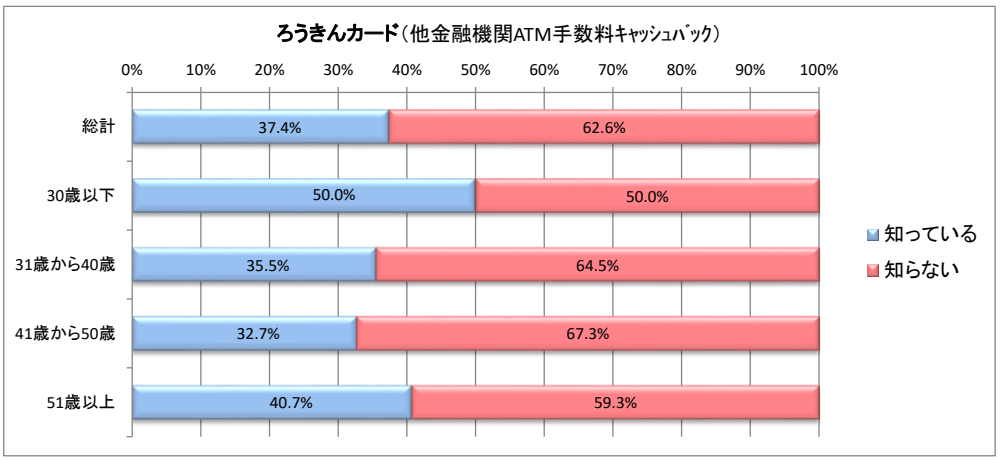
（1）ろうきんのことを、どの情報でお知りになりましたか。

「広告(テレビ・新聞・雑誌等)」が23.7％で最も多い。また、次いで「友人・知人の紹介」で21.6％である。口コミによる効果も大きく、一度、金融機関を利用するとその後も継続して同じ金融機関を利用する傾向にある。



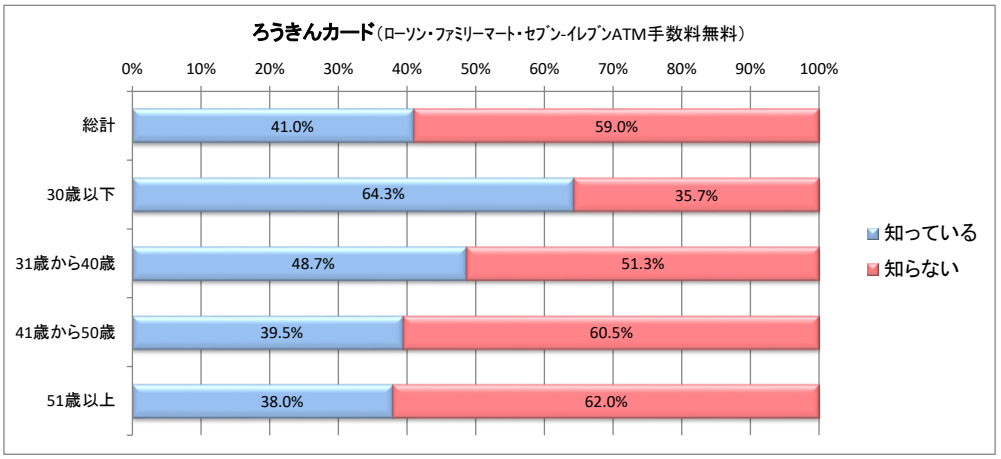
（2）ろうきんカードの他金融機関ATMご利用手数料は108円 キャッシュバックとなっていますが、ご存知ですか。
（但し 時間外手数料は対象外）

ろうきんカードについて、これまでも“知らせる”活動を実施しているが、全体で62.6％の方が「知らない」状況である。これまで以上に、“知らせる”活動を工夫し展開する必要がある。



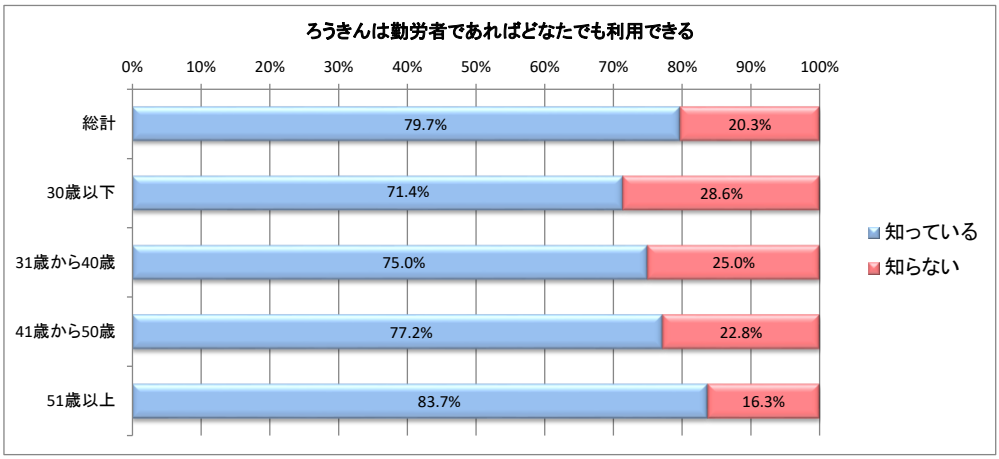
（3）ろうきんカードはローソンおよびセブン-イレブンでのATM利用手数料は無料となっていますが、ご存知ですか。
（但し セブン-イレブンでは19：00～7：00のご出金は108円の時間外手数料がかかります。）

上記と同様に、これまでも“知らせる”活動を実施しているが、全体で59.0％の方が「知らない」状況である。これまで以上に、“知らせる”活動を工夫し展開する必要がある。



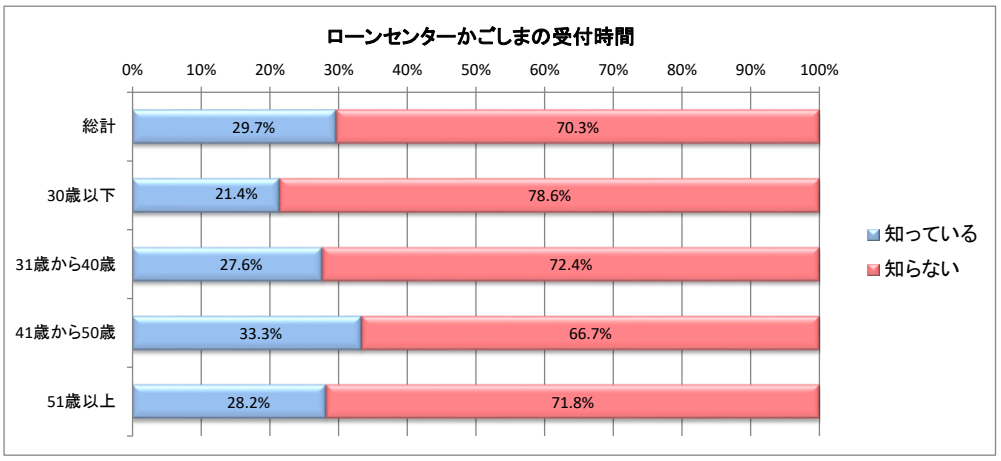
（4）ろうきんは、働く人の金融機関です。勤労者であればどなたでも利用することができることをご存知ですか。

「知っている」方が79.7%あるが、30歳以下については「知らない」が28.6%と最も多い。



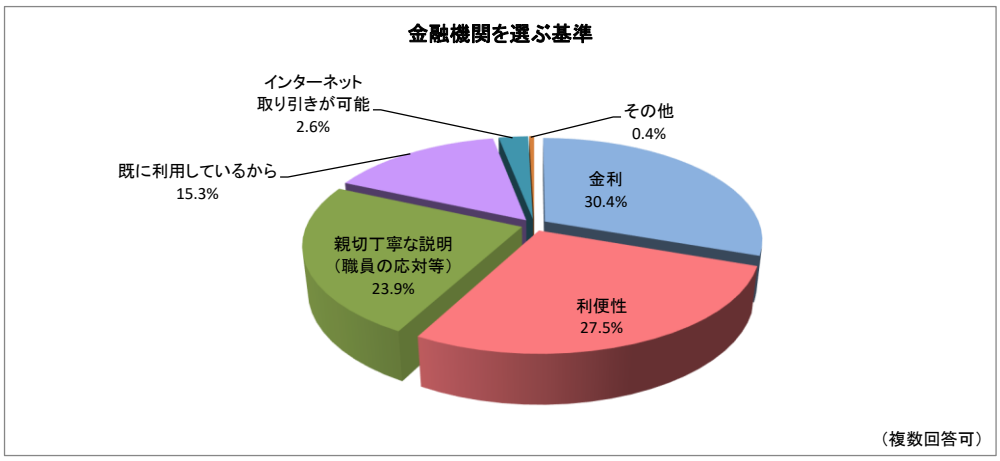
（5）ろうきん鹿児島支店2階ローンセンターでは、平日は10時～19時(水曜日は休み)、毎週土・日は10時～17時(4月～日曜のみ営業)にて融資相談、受付を行っていますが、そのことをご存知ですか。

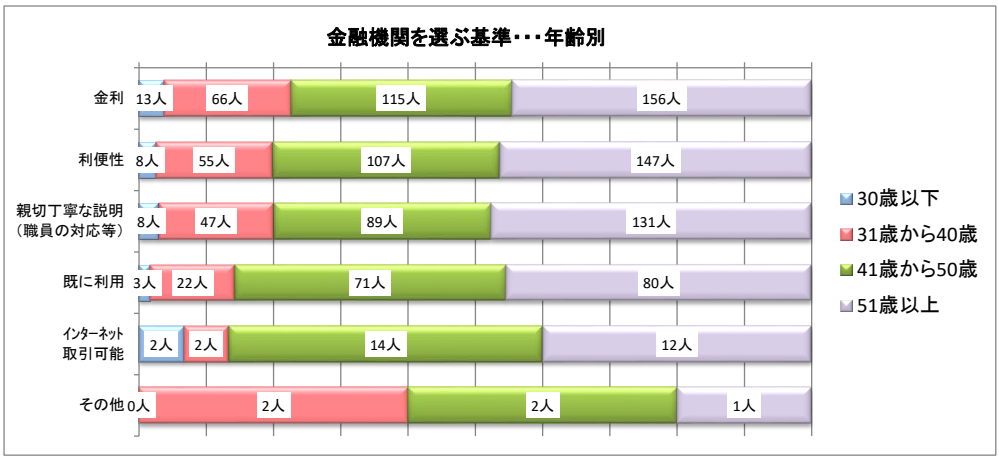
受付時間について、「知らない」方が70.3%もあった。融資説明が中心となり営業時間のご案内が不足しているものと思われる。



（6）金融機関を利用する場合に何を基準で選びますか。

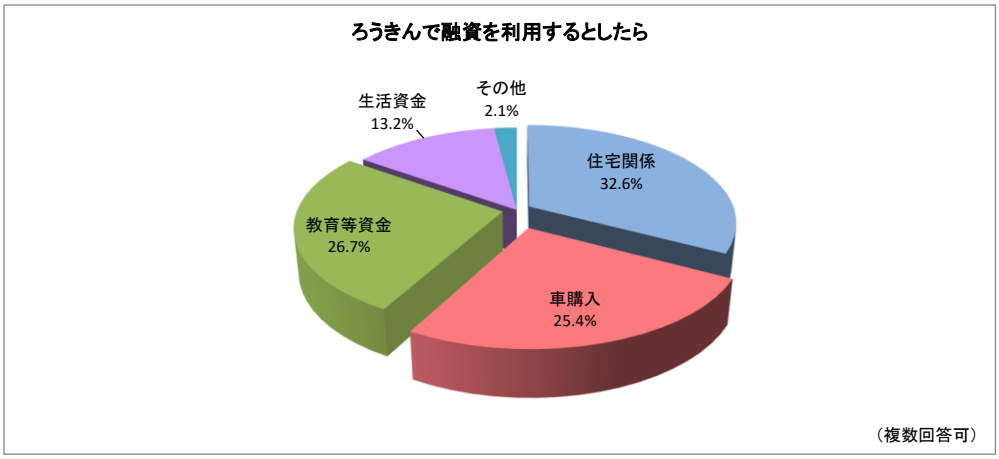
金融機関を利用する場合の選択の基準について、最も多かった回答は「金利」が30.4%であり、「利便性」が(27.4%)「親切丁寧な説明(職員の応対等)」が23.8%と続いている。

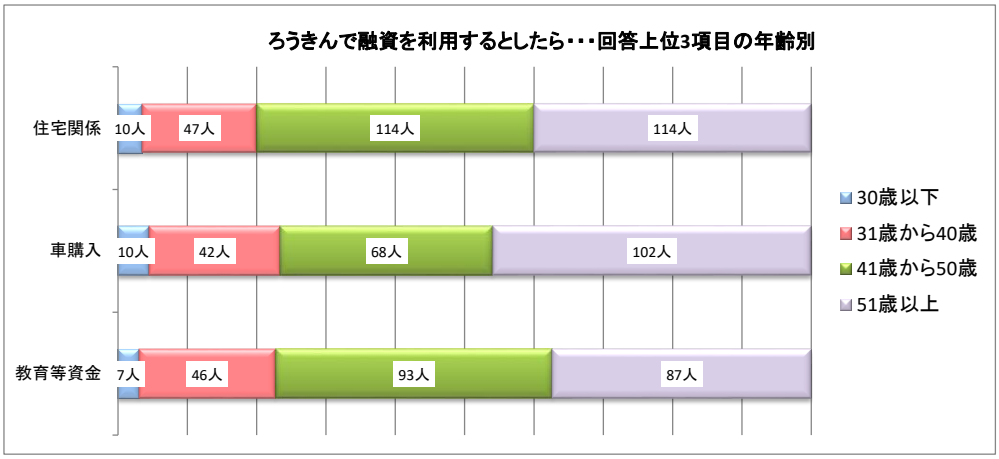




（7）ろうきんで融資を利用するとしたら 、どのようなことで利用しますか。

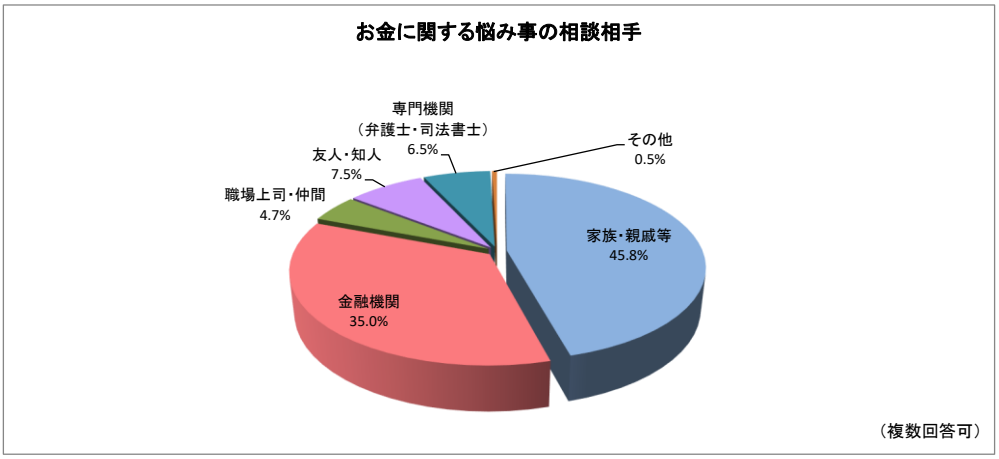
利用目的については、各種目的資金が幅広く回答されている。今回のアンケートでは子どものいる家庭の71.8%が高校生以下であり、「教育資金等」については26.7%にとどまった。今後、ますます教育資金の需要が高まるものと思われる。





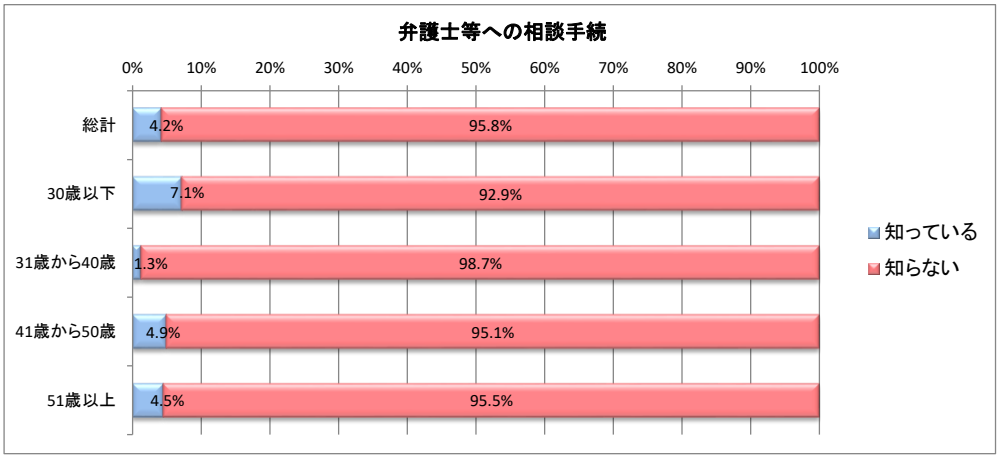
（8）お金に関する悩み事が生じたら、どなたにご相談されますか。

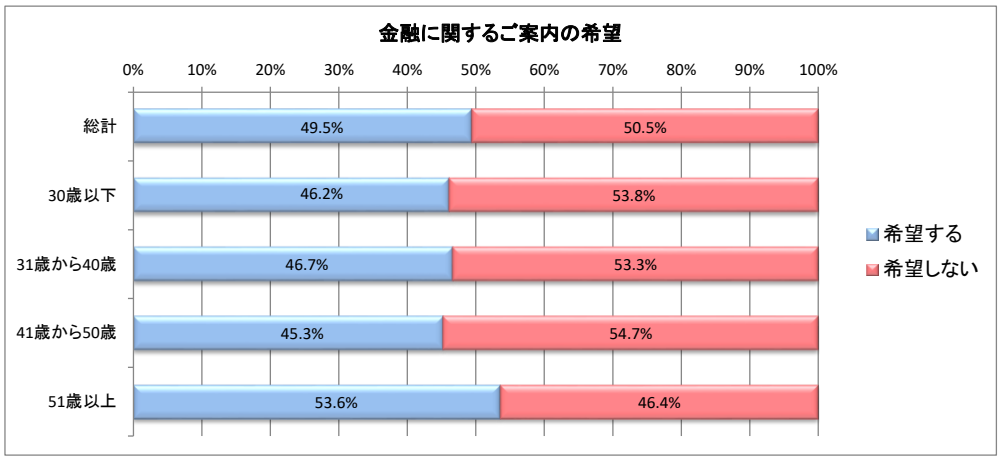
相談先は、「家族・親戚等」45.8%、「金融機関」35.0%を合わせて80.8%である。直接、「専門機関（弁護士・司法書士）」に相談する方は6.5%であり、融資だけでお金の問題を解決するのではなく、法的手続きを含めた専門的な解決方法を検討する方は少ない。



（9）ろうきんでは弁護士等への相談取り次ぎも行っていますが、そのことをご存知ですか。

九州労働金庫として、お金に関する悩みについて、弁護士への相談手続きを行っているものの、95.8%がそのことを「知らない」と回答している。多重債務問題に陥った方々の救済だけではなく、どうしたら陥らないかを検討・周知していくことが今後重要であると考える。



（10）鹿児島県勤労者共済会から今後金融に関するご案内を希望されますか。

今後金融に関する案内については、49.5%の方が希望されている。